

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ
------	----------------

公表日 令和8年2月28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	92%	8%	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日ごとに担当者が使える部屋が概ね決まっている。 ・jmottoを活用し声をかけあいながら部屋の調整をしている。 ・Jmottoを使用して部屋予約を共有しやすくしている。 ・実績回収ファイルに部屋表記の紙をいれることで、事前に部屋の有無を確認できていると思う。 ・スケジュールで部屋の管理を丁寧に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日によっては工夫をしても面談場所など個室が一杯になる日もある。 ・部屋の調整を工夫しているが個別療育の部屋が確保できないこともある。非常勤さんの出勤曜日が均等になるとよいと思う。 ・クラス療育が療育室内で効率的に行えるようなプログラムの工夫。 ・収納スペースの確保。 ・他事業との兼ね合いでは、部屋が足りないことが多い。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	81%	19%	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス間で協力し合いながら体制を組んでいる。 ・手が足りない状況にならないようシフトや配置が組まれている ・必要に応じて配置を多くするなどできている ・朝礼での報告をすることでWチェックになっていると思う ・クラスは、お子さんの人数や活動内容に合わせてスタッフの人数調整を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保護事業や兄弟対応保育事業は、事業所職員全体で対応しているため、職員によって業務の合間に担当することに差が生じやすい。 ・土曜日は職員が療育に皆入ってしまい事務所に人がいなくなることもある。 ・利用児のお休みが多いと2：1以上の配置になることもある。 ・部署としては人員不足な部署もあるように感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	96%	4%	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、クラスの部屋を入れ替えたことで、生活環境が構造化された。 ・クラス療育室を移動し、広さや収納、導線を改善。 ・手作りで空間を仕切っている。 ・活動室に手洗い場があるのは良いと思う。 ・年度毎に室内のレイアウトを検討している点。 ・クラスの部屋の構造化の実施、個室のパーティションなどの利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋の施錠、ゲートなど安全性と拘束との兼ね合い。 ・廊下に椅子や課題道具が置かれていることが多い。 ・歩行にサポートが必要なお子さんの為に、手すりがあるのは良いが、タオル掛けを置いたり利用はしにくい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	92%	8%		<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスできる場所（マットを敷く）があるとよい。 ・廊下に椅子や課題道具が置かれていることが多い。 ・こどもトイレが夏は暑く冬は寒いため、排泄支援にも影響がある。 ・活動室、廊下など、場所によって温度差がある。 ・テラスが、近隣からの騒音苦情の関係でテラスが有効に使用できない。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ
------	----------------

公表日 令和8年2月28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	92%	8%	<ul style="list-style-type: none"> 空いている部屋を確認できるツールができて、必要に応じて使えている。 個室ではないが、一部屋を柵や可動式パーテーションを使用して分割することで、必要に応じて個別のスペースを確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> 時々個別の予定や面談が重なると、場所を確保することが難しい場合がある。 水道の有無など環境で部屋が限られたり、足りないこともある。 「いるかの部屋」はリラックス、部屋にいられないお子さんの為に空いていれば自由に使える部屋になっていれば良い。活動で使用すると部屋が使えない時間が出る。 発達支援室内でクールダウンできる空間をどのように確保していくか。 療育、面談などが重なると部屋が足りないことがある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	69%	31%	<ul style="list-style-type: none"> 日々の振り返りと今後どのようにしていくかを話す事ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で共有する時間があまりとれていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	96%	4%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者ボランティアの場を設け、保護者同士の交流の場を設けたこと。 保護者ボランティアによる保護者交流会やコドモンでの情報配信など、保護者からの声を元に新たに取り入れたことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> より時間を取って職員全体への周知して共有して取り組みを検討できると良い。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	85%	15%	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議などで現場の声を吸い上げやすくなった。 毎週のクラス会議。 業務内容ごとの定期的な会議の場や個別面談等により、意見を伝える場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善にはつなげているが、時間がかかる場合もある。 意見交換をする場があるが、結果的にどうだったかのフィードバックする時間があればよいと思う。 面談など機会としては少なく感じる。 職員全体への周知は少ないと思われる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	96%	4%	<ul style="list-style-type: none"> SVを定期的に行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善にはつなげているが、全体への周知など時間がかかる場合がある。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ
------	----------------

公表日 令和8年2月28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	92%	8%	<ul style="list-style-type: none"> ・職場近辺で研修が受けられることが良い。 ・研修機会を頂きやすい。 ・症例検討の機会が保たれている。 ・定期的に研修やSVの機会や情報が提供されている。 ・地域での研修企画を元に、受講する機会が多くあった。 ・法人の発達分野の研修や、eラーニング、定期的スーパーバイズを受けるなど、学習の機会がある。また、その他専門研修などへの参加を相談し、受講する機会が得られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務時間外の開催が多い。参加した場合は超過勤務申請が可能だが、報告書の提出が必要であり、業務が増える。 ・経験の少ない職員への研修の場をより多く設けられたら良い。ケースカンファの機会がもっとあるとよい。 ・非常勤職員の参加する機会がもっと増えたら良い。 ・より実践的な研修の機会が増えると良い。 ・受講した研修の内容を、職場内で共有していく機会をもっと増やしていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	88%	12%		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに公表しているが周知されていない。 ・公表されているかが分からない。 ・支援プログラムの公表の仕方。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	96%	4%	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント表を活用し共有している。 ・担任間で話し合ってから計画を立てることが出来ている。 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別会議の中で一人のお子さんについて検討する機会を設けている。 ・ケア会議、個別常勤会議。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象人数が多いので難しいが、一人ずつの時間をより取れると良い。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	92%	8%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別会議の中で検討する機会を設けている。 ・ケア会議を定期的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有はしているが、もう少しその機会が増えればよいと思う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	77%	23%	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の書式を利用し共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてより高い頻度や適宜行って更新していくことが増えたら良い。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 中野区療育センターゆめなりあ

公表日 令和8年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	96%	4%		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	85%	15%		・非常勤を含めてより多くの職員が意見を出して相談していただける時間がより取れると良い。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	88%	12%		・基本的には担任が中心となって作っているので、他クラスや他事業所の取り組みなどをより共有できると良い
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	88%	12%		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	88%	12%	・朝のミーティングで事業所全体の状況、来客、部屋の使用など共有している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	73%	27%	・参加職員全体で日々共有している。	・行事等が近いと準備を優先せざるを得ない日もある。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	77%	23%	・支援に入る前に前回の記録を確認し、お子さんの変化や成長を確認しながら実施している。	・翌日の準備などとの兼ね合いで十分に取れない日もあるので、より役割や業務の分担など工夫して時間が確保できると良い。
	23 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	85%	15%		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ
------	----------------

公表日 令和8年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	92%	8%		
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	85%	15%		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	85%	15%		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	85%	15%	・ 支援シートを用いた情報共有の他、必要に応じて移行先の学校に連絡を行っている。	・ 支援学校以外は書類提出のみで伝えきれない感がある。
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	中野区療育センターゆめなりあ
------	----------------

公表日 令和8年2月28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携		(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	69%	31%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	50%	50%	・保育園との交流や地域の施設での活動は例年より増えた。	・保育園との交流の中で、子ども同士での交流がもっとできると良い。 ・機会としては設けているが、よりお子さんの地域参加について検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	85%	15%	・生活（家庭や所属園）での様子や療育での様子を交えて共有するように心がけている。	・バス送迎のお子さんの保護者の方とはあまり話す機会が設けられていない。 ・保護者参加週間の参加率がより上がるように促して、共有できる機会を設けていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	73%	27%	・地域の情報も随時コドモンにて発信できるようになった。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 中野区療育センターゆめなりあ

公表日 令和8年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	92%	8%	・保護者会等で説明している。	・必要な情報はコドモンなどを活用し随時発信しより共有していけるようになると良い。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	96%	4%		
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	96%	4%		
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	88%	12%		
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	81%	19%	・保護者同士でのボランティアの企画や、療育での親子参加を促す為活動内容を企画するなど努力している。 ・保護者同士での交流の機会として、保護者ボランティアを実施している。	・保護者ボランティアの趣旨説明を行うことで、より多くの方の参加や交流の機会につながられたら良いと思う。 ・きょうだい児支援についても今後取り組んでいけると良い。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	92%	8%		
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	96%	4%	・クラスご利用者には、コドモンによる定期配信を行っており、個別ご利用者には、学期ごとの通信を作成している。	・保護者だけでなく、より地域へ対しても事業所としてもSNSやホームページなどより発信していけるツールを検討しても良いか。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	96%	4%		
44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	73%	27%	・南中野区民まつりへ毎年作品展と今年から0円マーケットも行い好評だった。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 中野区療育センターゆめなりあ

公表日 令和8年2月28日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	92%	8%		・訓練内容やマニュアル、訓練など取り組んでいることをより保護者に伝えていく。
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	88%	12%		
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	96%	4%		
	48 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	96%	4%		
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	77%	23%	・事業所内の設備や、汚れ、破損、備品の置き場所など月に1回巡視を通して確認している。	
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	73%	27%	・引き取り訓練を年に1回行っている。また災害用伝言ダイヤルの訓練も合わせて行っている。	
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	92%	8%	・全体会議の場で共有している。	・改善策についてもより効率的に意見を挙げて共有していけると良い。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	92%	8%	・グループワークを含めた研修を行っている。 ・法人としても小さな出来事アンケートの共有など取り組んでいる。	
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%			